

三鷹市長賞

税は「寄与」である。

東三鷹学園三鷹市立第六中学校

三年 永井 春圭

「税」と言われてあなたはどんなことを想像しますか。私は税と言えば、「消費税」が思い浮かびます。たった一つの消しゴムを買う時でさえ消費税はプラスされその分を払わなくてははいけません。また、平成 31 年から消費税はついに 10% になり、私の嫌悪感は増すばかりでした。そんな私の気持ちを 180 度変えたのは父の言葉でした。

「税は『キヨ』だよ。」

ニュースを視聴していた時に父が放った言葉に私は驚きました。「寄与」とは、役立つことを行うことや人のために力を尽くすことです。あまりピンと来なかった私に父は続けました。税金は医療や教育など私たちの暮らしに様々な形で使われている。と。

まず、最も私たちに身近なのは教科書です。皆さんは、教科書の裏表紙にある「この教科書はこれからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」という印字を見たことがありますか。義務教育が終わるまで教科書は、税金で賄われています。現に高校生である私の姉は、今までの教材費とは見当もつかない値段の高さに入学当時驚いていました。

その時に教科書はただ配っているものというそんな軽いものではなく、学生のために知らぬ誰かが尽力し、私たちの未来のために寄与してくれているものだと気付かされました。

また、近頃では、子どもの医療費の助成が中学生までだったのが高校生まで引き上げられていたり、給食費の無償化など税金による寄与は私たちの暮らしを大きく支えています。

ですが、税金に悪いイメージが一つもないという人は限りなく少ないでしょう。理由としては、せっかく働いた給料が少なくなってしまうことや所得による格差が挙げられると思います。

確かに、非常時しか使う時がない救急車や学生のための机、教科書は今の社会人にとってあまり身近なものでもなく使う機会もあまりないでしょう。

ですが、今、あなたが日常で当たり前だと思っているかもしれない道路やゴミの処理、災害時、過去にはコロナの対策など様々なところで税金は使われています。

道路自体には「この道路は現在の日本を担う皆さんへの期待を込め税金より作られ無償で通行できます。大切に使いましょう。」という目に見える印字はなく、税金のありがたみに気づきにくいですが、一人一人が税金をただ払うのではなく納税をすることで誰か、何かに寄与ができると考えることが税へのイメージを変えることに繋がると私は思います。

これらを踏まえて、次代に私たちは税とはなにか自信を持って言えると思います。

「税とは、寄与だよ」と。